

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ（「お知らせ」令和6年1月号）

令和6年1月1日

新年おめでとうございます。本年も皆様息災で過ごされますようお願いしております。

今年の仕事？始めは1月14日（日）9：00～10：30です。（2月は18日の予定）
旧年同様よろしくお願い申し上げます。

〇トピックス：

- 12月17日（日）の活動日は、最低気温4℃ながら快晴の穏やかな天気恵まれ、総勢7人で南口「みんなの庭」の草引き・清掃に精出しました。先月に植えた冬—春花の隙間にいろんな野草が自然に生えてきて、緑の絨毯のような景色です（写真）。
- 12月15日（金）、旧年お世話になった高知市みどり課に年末ご挨拶に伺いました。
- 12月16日（土）、故中田昌志代表幹事を偲ぶ会が、城北大川沿いの喫茶店「さらの木」で催され、ご縁があった人々20人ほどが集まりました。



南口3志士像付近にハナキャベツのプランターが置かれました（高知農業高校提供）

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え（花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など）をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先：〒781-8104 高知市高須3丁目32の8 北添優子
携帯電話：090-4783-5578 E-mail：gonta.kitazoe1960@docomo.ne.jp
共同幹事 公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：kumont2@yahoo.co.jp

ホームページ：http://mori-kochi-ekijimdo.com/（「お知らせ」バックナンバー掲載）

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 会計北添優子」名義 普通 0709695

寂しい街路樹—なぜ伐りまくるのか？（その2）

効率第一、街路樹は道路の付属物

高度成長時代の日本では、効率にそぐわないとされたもの（例えば街の緑）に日が当たることがなく、街路樹（並木）もいまだに「道路付属物」の一つ＝道路法 という扱いです。「人にやさしい・・・」とか「持続可能な・・・(SDGs)」という言葉がはやりだしましたが、開発やイベントを錦の御旗にして大量伐採（東京五輪、神宮外苑再開発計画など）が行われ、街路樹の「強剪定」、「切り詰め剪定」が今なお幅を利かしています。効率至上主義の亡霊といえましょう。



滅多切りされて樹種不明（本町筋）



強剪定を免れているプラタナス（本町筋）

（今月号の写真は全て12月撮影）

樹木管理は委託業者に丸投げ？

一方、市民・首長・行政職員の意識が切り替わった地域で、先進的な街づくりのお手本が次々と生まれていることは、「お知らせ」令和5年11月号でご紹介したとおりです。緑の生活空間を重視して、専門知見のある人員を養成・配置し、必要な予算も配分しています。

しかし、多くの場合人がいない・技術が無い・お金も無いため、樹木管理を委託業者に依存し、悪く言えば丸投げになりがちです。業者は大量に伐れば伐るほど目先儲かりますから、仕事の質を問われない限り、結果は推して知るべしです。



左はいかにも不自然な丸の内緑地のイチョウ、右はイチョウの自然樹形（江ノ口瓢箪公園）



自然樹形が保たれている比較的新しい街路樹（仁井田地区県道376号線）

風雨で倒木の危険？

台風や大雨に備えて樹木を切り詰めるという話を聞きますが、葉を失った木は根っ子の力が衰え、かえって弱くなるそうです。強剪定されたり、道路工事で根を切られた樹木は生命力を失って、病虫害で立ち枯れしやすいことも知られています。

「落ち葉が困る」という苦情

役所が受ける苦情の最たるものがこれです。「緑が日陰を作ってくれて涼しい」、「眺めに癒されている」といった声をわざわざ伝える人は少ないかもしれませんが、両者の中庸をさぐって折り合うようにしたいものです。家の前や広場の落葉掃除を役所に頼らない地区は多いですから、やむを得ない場合だけ役所が人を備う（シニア・ボランティアなど）ことになります。